

2011年7月30日（土）明治薬科大学オープンキャンパス 薬学ミニ講義

「薬剤師と数字－クスリや病気の情報を正しく理解するために－」

11：40～12：20

（公衆衛生・疫学 教授 赤沢 学）

インターネットを使えば誰でも簡単に「クスリ」や「病気」に関する情報を調べることができます。例えば今年の夏こそ「ダイエットに挑戦」と考えているあなた、Googleで「ダイエット薬」と検索すれば400万件以上がヒットします。この中から本当に必要な情報を探し出すにはどうしたら良いでしょうか。信頼できる情報を選び、それを正しく理解するのは簡単ではありません。実際ダイエット効果をうたう健康食品やサプリメントは数多く売られています。あるホームページには「☆☆を使った短期集中ダイエットで、簡単に10キロやせました！」という体験談が書かれていました。「もしかしたら私も」と期待して☆☆を購入したいと思いませんか？よく考えてみましょう。本当に期待通りの効果が誰でも得られるのでしょうか？

クスリや病気に関する情報は、数字として表現されることがあります。「ダイエット薬を飲んだ100人のうち10人に効果があった」や「※※ダイエットに比べ5倍効果があった」のように割合や比較で示すと分かり易くなります。また、数人の体験談よりも、定められた計画に従って実施された500人の比較試験のほうが信頼できます。このように同じような数字情報でも、その集め方によって意味合いが違います。数字を使った表現方法や情報の集め方を学ぶことで、数字に騙されず、信頼できる情報を自分のために役立てることができます。

クスリの治療効果や副作用に関する情報の多くは数字で表されています。そのためクスリの専門家である薬剤師には、患者が求める情報を提供し、それを分かり易く説明することが期待されています。薬剤師を目指す学生が、大学でどのようにクスリや病気に関する「数字」を学んでいるか、この機会に体験してみませんか。